

令和5年度第3回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会（議事録）

日 時 令和6年2月9日（金）

19時～20時25分

場 所 高梁市役所 3階大会議室1

出席者 仲田会長、西副会長、鶴見副会長、野村委員、樋口委員、笹川委員、原田委員、
大久保委員、笹井委員、佐藤委員、猪元委員、細川委員、内田委員

WEB参加 草野副会長

欠席者 磯村委員、竹崎委員

事務局 内岡次長、山本参事、赤木所長補佐、森本所長補佐

1 開 会（進行：内岡次長）

2 あいさつ

（仲田会長）

在宅医療と介護連携は人と人のつながりをつくって推進していく事業。コロナ禍のような状況になると、人と人との関係が希薄になって活動がスムーズにいかない。来年度は交流がもっとできるようになるのではないかなと思う。久しぶりにワールドカフェでみんなで集まって繋がりが元に戻ってもいいのかなと思う。本日は令和5年度の報告をいただきまして、令和6年度に向けてどのような企画を考えて、あるいはどのような方向性で進めていくか知恵を出し合っていたきたい。

3 協議事項（進行：仲田会長）

（1）令和5年度の事業報告

※資料P4～16、医療・介護市民公開講座アンケート結果にて事務局説明

（佐藤委員）

多職種連携研修会では、ICTの最初の足掛かりになってのではないかなと思う。実務者部会で今年度の反省から来年度への結びつき等について検討していきたい。

（細川委員）

高梁かんごねっこの事業は例年どおり実施した。今年度初めてプリセプター研修と看護管理者研修会を実施した。プリセプター研修は8名の参加があった。他の施設で同じような悩みを持っている人がいることが分かったことや、病院全体で新人を育てるという話を聞いて、自分だけが不安にならなくていいと思えたという意見があり開催してよかったと思っている。看護研究研修会ではスキルアップできたと感じている。多くの研修会は吉備国際大学の竹崎先生に講師をお願いしている。受講生をまず褒めてくださったうえでアドバイスをくださるので、受講生が心穏やかになって頑張ろうという気持ちなる。今後も吉備国際大学と連携していきたい。来年度は10名の入職者があるとのことで、プリセプター研修も実施してほしいとの意見がある。来年度も長い定着に繋がるよう継続して実施したい。

（鶴見副会長）

12月15日の多職種連携研修会はその後視聴できるというような話ではなかったか。

（事務局）

1月末まで視聴できるということで、参加者には12月末にメールでお知らせをした。

(鶴見副会長)

この研修会に限らず、いろいろな講演や先日の医療・介護市民公開講座など可能なものは市のホームページにアップしていつでも視聴できるようにしてほしい。

(事務局)

医療・介護市民公開講座は吉備ケーブルテレビが撮影に来られていて、番組として放送されることなので、気を付けて見ていただきたい。

(仲田会長)

医療・介護市民公開講座のアンケートで、動画を市役所や病院の待合で流してほしいと答えてあったが、ACPや福祉用具の説明動画を病院の待合で流すというのがあるといいかもしれない。ユーチューブにアップされると待合で見ることができるといいかもしれない。

(野村委員)

津山医師会の取組でロコモ予防に対して栄養面の管理も合わせて行うというものがある。運動面の介護予防に加えて栄養面での指導や教育、研修があってもいいのではないかと思う。

(仲田会長)

今のアイデアはとてもいいと思う。今まで市民公開講座でしたことはあるのだろうか。

(事務局)

これまで市民公開講座ではなかったように思う。

(野村委員)

津山医師会に管理栄養士が4人おり、すべて病院勤務で外に出たことがない。外に出て市民の中に実際に入ってみると、やることがいっぱいあったと率先して活動されたと聞いた。高梁市でもそちらの方向で考えていただければと思う。

(鶴見副会長)

以前多職種連携研修会で栄養面の研修を実施した。

(事務局)

多職種への研修会は実施したが、市民に向けての働きかけはあまりない。

(内田委員)

全国メディカルコントロール協議会の中で、ACPをしっかりと考えないといけないという話があった。全国でのACPの認知度は5%。まだまだ普及していない。全国的に普及すれば救急のあり方が変わってくると思う。

(猪元委員)

訪問看護ステーションの連携について、国のモデル事業として、災害、コロナ感染の時は連携できるようになった。通常時の連携については、保健所長から厚生労働省に確認しているところ。

(仲田会長)

医療保険の訪問看護は厳しいが、介護保険は複数の事業所が行っていいことになっている。来年度は上手に活用して連携できればいいと思う。

(2) 令和6年度に向けての課題と方向性

●ラインワークスを活用したネットワークシステム

(仲田会長)

ラインワークスでビデオトークはできるか。

(事務局)

ビデオ通話機能がある。

(仲田会長)

ラインワークスをオンライン診療に使うときの厚生労働省のガイドラインは満たしているか。

(事務局)

厚生労働から出ている「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」の中で、通信の暗号化、盗聴等の防止、ネットワークに対する安全管理、不正な通信の検知や遮断・監視、利用者認証、アクセス権限の管理、リスクアセスメントを踏まえた安全管理対策の設計管理という項目があるが、それらすべてをクリアしていることは確認している。

(仲田会長)

オンライン診療を進めようと思っても自宅におられる独居高齢者には難しい。訪問看護の看護師が機器を持って高齢者宅に行き、看護師が仲介をして診療を受けるというイメージを持っていたが、高齢者の一番近くにいるのはケアマネジャー。ラインワークスのIDを持っているケアマネジャーが動いてくれば、デイサービスセンターやショートステイなどでオンライン診療が可能になるのではないかな。

(野村委員)

ケアマネジャーがそこまで時間があるかどうか。

(仲田会長)

個人宅に行くのは時間の制約が出てくるので、デイサービスに来た時に対応できればと思う。

(佐藤委員)

ラインワークス同士だと可能だと思うが、片方が通常のラインだと駄目だと思う。また、デイサービスのサービス提供中に診療報酬は算定できないと思う。受診同行という形でケアマネジャーが仲介するのが理想だと思うが、マンパワーの問題がある。

(野村委員)

デイサービス利用中のオンライン診療が駄目なら、医療側が請求しなければいい。医療保険の訪問看護中の訪問診療はだめだが、介護保険の訪問看護中に訪問看護師の要請で訪問診療は可能だと思う。

(佐藤委員)

急変時には可能だと思う。

(仲田会長)

ミニデイサービスやサロンではどうだろうか。

(猪元委員)

確認する。笠岡の離島でオンライン診療しているが、いろいろ条件があり容易ではない。

(仲田会長)

ラインワークスの活用をいろいろな方向で検討してほしい。

(野村委員)

消防署にラインワークスに入っただけだと、救急搬送前に患者の情報をある程度得られる。

(仲田会長)

救急車に同乗する消防職員のスマートフォンにラインワークスのアプリを入れることは可能か。

(事務局)

令和6年度のラインワークスでの情報連携の本稼働に向けては、3月に消防署も含めて市内の医療機関、介護事業所に説明会を実施し、登録してもらおう。使用できる端末は各事業所が保有している端末に加えて、職員個人が所有する端末も各事業所の責任下において可能にしようと思っている。

(鶴見副会長)

ラインワークスを使って具体的にどういうことをするのか。

(佐藤委員)

情報提供、サービス提供票・情報共有書のやり取り、動画のやり取り、日程調整などで使っている。日程調整ではグループを作って同時にできるので電話の手間が省けた。サービス担当者会議をビデオ通話で行うこともできる。

(仲田会長)

医療情報、バイタルサインなどの入力の手間がかかる。音声入力はあるか。

(佐藤委員)

音声を送ることができる。

(野村委員)

このような会議もラインワークスを使ってできるか。

(事務局)

ビデオ通話機能でできる。最大 200 人同時に入れる。

(鶴見副会長)

ビデオ通話の場合相手の顔がすべて画面上で見れるか。

(事務局)

200 人同時という訳にはいかないと思うが、ZOOMのようなイメージで可能。

●医療・介護市民公開講座

(仲田会長)

今年度の市民公開講座は好感度のアンケート結果でやってよかったと思う。大学、高校へ呼びかけたが中々興味を示してもらえない。若い人にACPを伝えていく企画を考えてもいい。高校生や大学生など若い人に寸劇に加わってもらったらどうか。また働いている世代の人の参加がない。青年経済協議会へ取っかかりとして声をかけてみるのはどうか。

(樋口委員)

声かけはできるが興味を示されるかどうか。

(仲田会長)

興味を示される内容はこういったものかは、実際に話をしてみないとわからない。

(猪元委員)

保健所が地域職域連携で一緒にさせてもらっていたのが商工会女性部。介護や健康づくりなど女性の方が意識があるかもしれない。

(佐藤委員)

先ほど話に出ていた栄養やロコモ予防についてはいい案だと思う。あとマイナンバーの話や正しい救急車の呼び方など市民向けのものもいいと思う。

(鶴見副会長)

介護される人を増やさないためにも栄養面はしっかりしないといけない。

(大久保委員)

運動だけでは繋がらない。運動して食べて健康でいられる期間が長くなる。栄養士会でも話題にあげてみる。

(笹井委員)

リハビリと栄養の意識付け、結び付けは最近よく言われる。リハネット高梁でも話題にあげてみる。

(仲田会長)

高梁かんごねっとの研修で集まるのが大変だったらオンライン開催でもいいのではないか。

(細川委員)

会場参加ができない人はオンライン、またあとから動画で流すなどもいいのかもしれない。

(原田委員)

かんごねっと高梁の研修はうちのスタッフも参加していい勉強をしてきて非常に良かった。

4 その他

- ・多職種連携研修会について（事務局説明）
- ・家族介護者交流事業について（事務局説明）

5 閉 会

(鶴見副会長)

コロナの影響でオンラインでの会議が多かったが、こうやって顔を見ながらの会議はいいと実感した。ケアキャビネットは10年近く使ってきた。廃止になった原因はいろいろあると思うが、顔が見える関係づくりができた、医療・介護を前に進めて行こうという雰囲気づくりができたことが一番良かった。ラインワークスなどの機器を利用しながら人の見える関係で医療・介護が進めて行ければいい。人口減少で医療・介護スタッフの確保が難しくなっているが、少ない中で医療・介護を維持して行かなくてはならないので頑張ってください。